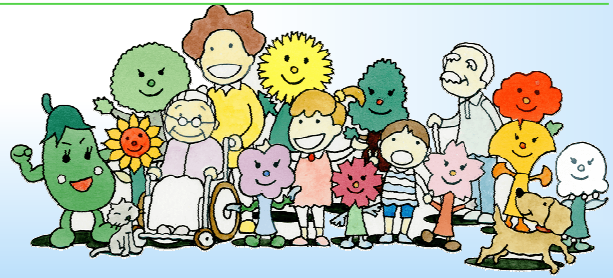
スタッフひとりひとりの
モチベーション向上

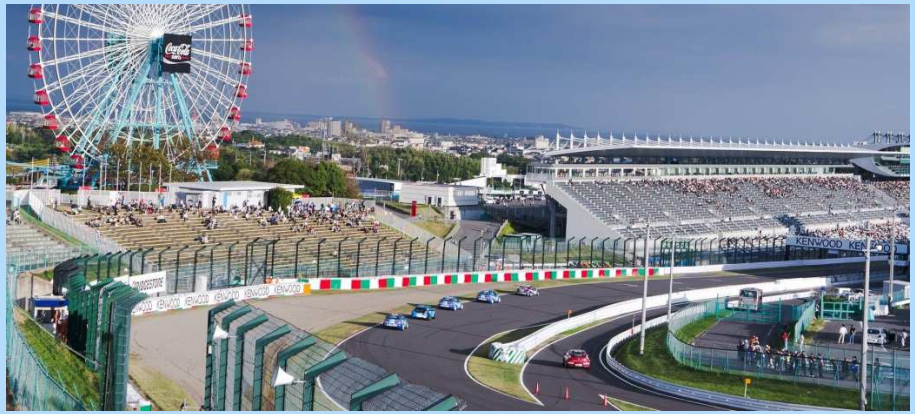
～ICT等を活用した
スマートな介護を目指して～

平成30年度東海北陸ブロック老人福祉施設研究大会(岐阜大会)
平成30年7月13日
特別養護老人ホーム　鈴鹿グリーンホーム
ユニットリーダー　北村　丈一郎

私たちは、地域に信頼されるべき
存在であり続けます



*はじめに・・・



SUZUKA CIRCUIT

モビリティのテーマパーク
鈴鹿サーキット

モビリティ文化の原点、それが鈴鹿サーキット。
子どもから大人までが楽しめる一大アミューズメントステージ。

*当法人は鈴鹿市西部地域の植木や茶の栽培が盛んな緑豊かな地域に位置しています。近くにある鈴鹿サーキットが有名です。

１．これまでの取り組み

・組織風土と人材育成の考え方の徹底(H25～)

・人事考課制度、目標管理制度の導入(H25～)

・「経営理念」などの方針→「中期経営計画」→「事業計画」→「ユニット運営計画」→「ユニットリーダー会議」→「ユニット会議」→スタッフへの浸透

・ICT、介護ロボット・機器の毎年導入(H28～)

・短期入所新ユニットの開設(H30.１～)

・眠りSCAN(パラマウントベッド社製)の導入(H30.2～)など

２．新しい中期経営計画の策定から見えた課題

中期経営計画(2018. 4～2021. 3)

ショートステイ1ユニット増築(H30. 1)
に際し、新たにセンサー型ロボット
眠りSCANを追加導入し、ICTを活用した
<u>さらなるケア・組織改善</u>
に取り組んでいくこととした。

３．導入前の現状・課題

・夜間、決められた時間に利用者の様子を確認するため職員の動線が長く業務時間が増える（利用者の睡眠も妨げ支援時間も増える）

・夜間、利用者の状態が常に確認できる訳ではなく、異常があった場合に早期発見できない精神的不安がある

・業務による残業時間が多く翌日のモチベーションが下がってしまう

・ケアの材料である夜間のデータが見えない

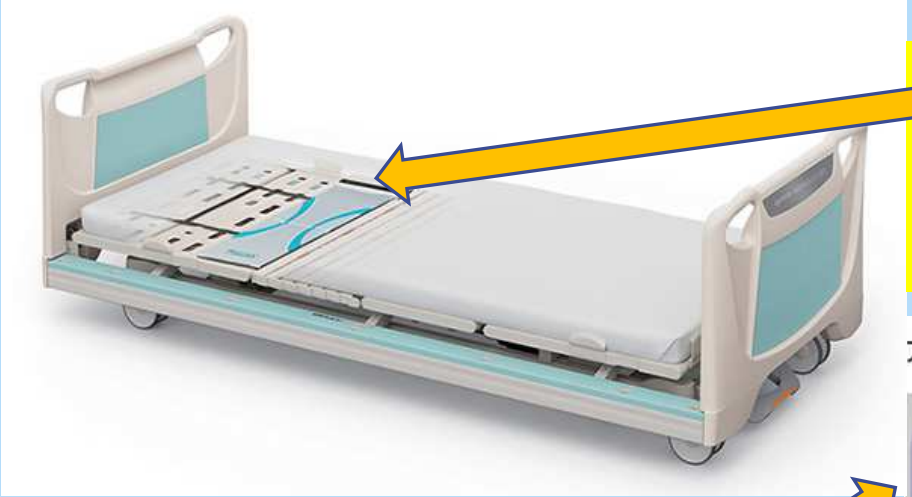
・介護現場のイメージが変わらない

３．具体的な取組内容

・ケアワーカーの身体的負担・精神的負担の軽減
・ケアの中身の見える化
・既存設備やシステム活用方法についての発想の転換

４．眠りSCANの導入

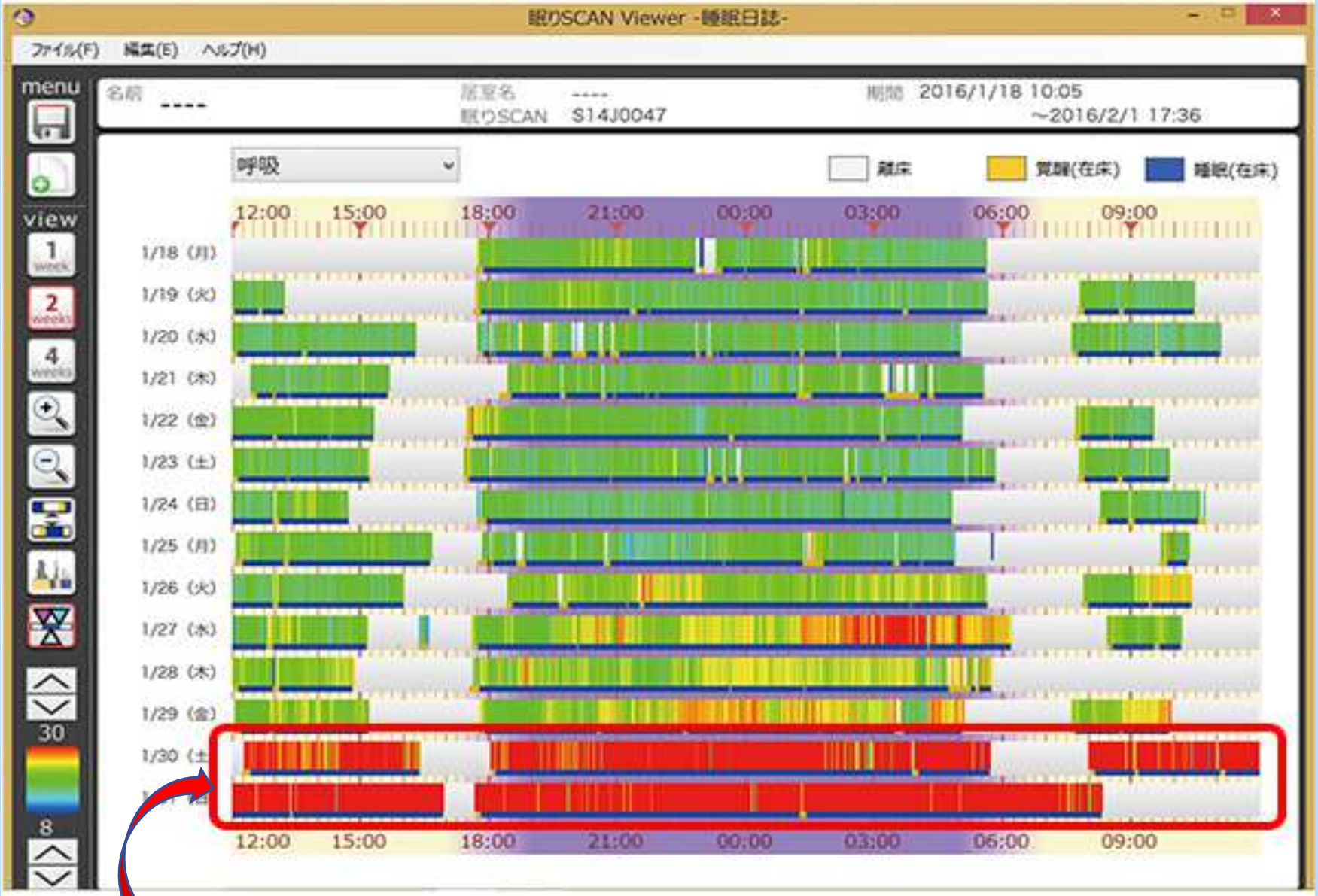
・H30.1月に増設したショートステイへ、9台導入することとなる。



・マットレスの下に敷くだけで対象者の覚醒状態や脈拍・呼吸状態が端末に表示される

タブレット端末に覚醒状態・脈拍・呼吸状態が一覧で表示される。通知機能により覚醒時や起き上がり時、立ち上がり時タブレットに通知音が鳴り知らせることも可能。

呼吸日誌



※呼吸状態や脈拍に変化があると色が変化する

・導入して見えてきた課題

①操作方法の理解が無く操作できない、意欲が無い。
⇒活用するメリットを知らない。

②眠りSCANの活用方法が分からずセンサーマットの代わりになっていた。
⇒センサーマットは以前から使用しているため機能を知っているから代用品として活用できた。

③使い方が分からないため業務時間に短縮したなどの変化がみられない。
⇒効率的な活用をしていないため業務時間に変化が無い。

・導入３ヶ月後

①勉強会を実施し理解が難しいケアワーカーには再度指導し操作が可能となった。

②ユニット会議で活用方法を決定⇒夜間定期的な様子確認の廃止、覚醒時の様子確認へ。

③不眠や不穏のある利用者を対象に、睡眠リズムを把握し安眠へ繋げる取り組みが動き出した。

ショートステイ利用者　Ｋ　様

介護度　：　要介護③

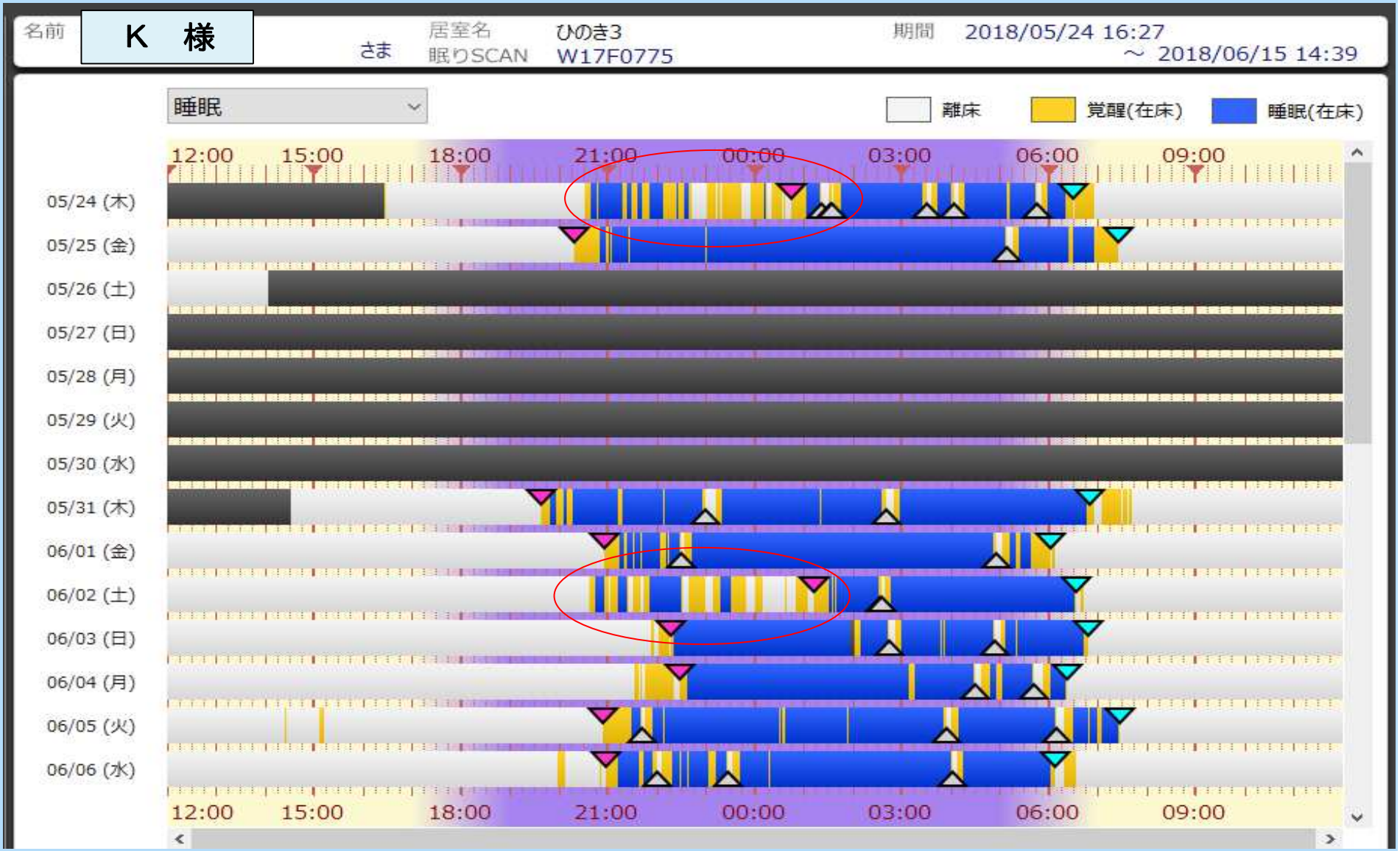
既往歴　：　アルツハイマー型認知症

症状　：　普段は他利用者様やスタッフと会話されたりと笑顔が見られるが、一度不穏な状態になると他者の言葉が耳に入らず口調が激しくなる事や号泣するなど５分ごとに喜怒哀楽が激しく変化している。

原因　：　強い孤独感があり、傍に誰もいない夜間時に不穏が起こり不眠になることが多い。

対策　：　①日中は会話が好きな利用者様との配席に配慮し、スタッフによる定期的な声掛けも行い不安や孤独感を防ぐ。

②今まではセンサーマットを設置していたが、反応時に訪室すると既に不穏な状態⇒ 眠りＳＣＡＮを設置し、起き上がり時ではなく、覚醒した時に訪室し安心できるよう声掛けを行う。

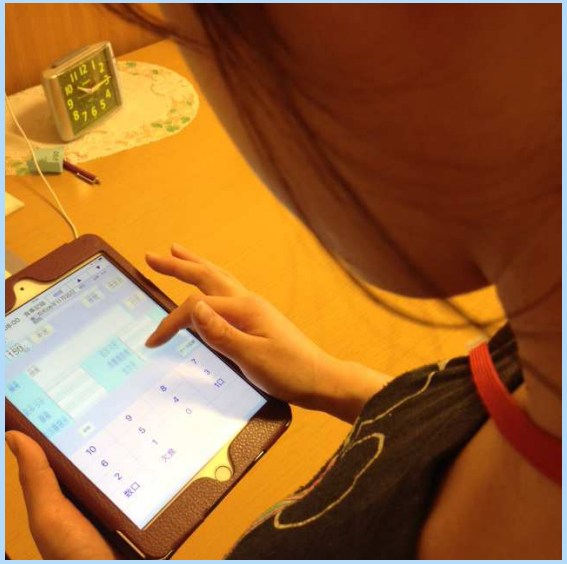


結果　：①覚醒感知時に訪室し声を掛けることで孤独感が軽減され不眠の回数が減少した。

②安眠の確保により支援時間が減少し、スタッフの余裕や安心の確保に繋がった。不穏対応での残業も無くなった。

・その他ICTの導入

メンタルコミュニティロボット「パロ」の導入
⇒精神的なセラピー効果により元気付け、動機付け、ストレス軽減を図り、日中の覚醒を促し夜間の安眠や不穏の軽減につなげることで支援時間の軽減によるケアワーカーの精神的負担の軽減や業務効率化につなげる。



電子記録システムの導入
⇒紙ベースの記録と比べ、より効率的に記録が可能。過去の記録も検索機能ですぐに探すことができ、記録全般の効率化につなげる

④ホームページの活用。

⇒当法人のホームページにて取り組みの様子を掲載し、地域への発信や、ICTを活用したスマートでカッコいい介護の見える化によるPR活動となった。

○ グリーンホームだより

鈴鹿グリーンホームHOME > グリーンホームだより > 「眠りSCAN」を体験しました。

研修 「眠りSCAN」を体験しました。 2017/06/23

平成29年6月23日、パラマウントベッド社製のセンサー型機器　見守り支援システム「眠りSCAN」を体験させていただきました。
当ホームでは、装着型・非装着型移乗介護機器や排せつ機器、入浴支援機器、癒し系のロボットを導入していますが、見守り支援機器は未導入となっています。
見守り支援機器は、従来のナースコールやセンサーマットとは異なり、ご入居者のプライバシーに配慮しながら、睡眠・覚醒や在床・離床状況の他、呼吸数などの情報を手元のタブレット等の端末機器で確認することにより、ご入居者の安心とスタッフの特に夜間勤務の負担軽減を図るものです。また、タブレット端末に情報が集約されることで、データの分析が容易になり、私たちがおひとりお一人のご入居者の生活習慣に合わせて支援を行いやすくなるという良い点もあります。
マットレスの下に敷いて使用する非接触型のロボットで、非常に微細な振動をキャッチして、覚醒、心拍数、呼吸数等を測定できるとのことで、精度は接触型のものの95%くらいとのことです。
今までは訪室した時には、視覚でしか得られなかった情報がデータで見える化できたり、支援を予測しやすいということで、スタッフの反応はまずまずでした。
今回、説明を受けたスタッフには、ユーザビリティ評価簡易スケールを用いてみて、導入の参考にしていきたいと思っています。
新たなことに常に"チャレンジ"していくグリーンホームでありたいと思います。
（特別養護老人ホーム　施設長）

活動 第一回 モバイタルくん会議 2016/07/11

平成２８年５月から特別養護老人ホーム内で使用している介護・医療の電子記録システム「モバイタルくん」を稼働し、２ヶ月が経過しました。本日は各ユニットの代表者が集まり、実際に２ヶ月間運用した状況で入力時の不具合やシステムの追加や要望などを話し合いました。集約した内容は後日メーカーに伝え、システムなどを修正していただく予定です。
今回、従来の手書きの介護記録から電子記録システム「モバイタルくん」に移行したメリットとして、介護記録の記入時間を短縮できたことと、日々の食事・水分摂取量・排泄状況・健康状態などの情報を一定期間ごとに振り返り、過去からの状態の比較・分析などが容易できるようになりました。その結果、入居者ひとり一人の状態を分析し、職員間で共有することにより、すばやく介護の方向性が決まり、介護の質も向上できる効果があります。
まだ電子記録システムに不慣れな部分もありますが、これらのデータを有効に活用し、入居者ひとり一人にあった介護を提供していきたいと思います。
（こすもすユニット　ユニットリーダー）

活動 メンタルロボット「パロ」での取り組み 2018/04/06

4月に入りぽかぽか陽気の暖かい日が続いていますね。この季節になるとお日様が気持ちよく、つい日中うたた寝をしてしまい夜になかなか眠れなくなることはみなさんありませんか？

グリーンホームにて活用しているアザラシ型のメンタルコミットロボット"パロ"ですが、研究によって日中に傾眠される方がこの"パロ"と触れ合うことで覚醒につながり、夜間によく寝られるようになり、それが昼夜逆転現象の改善につながったり、夜間の起き出しを減らすなどの効果が報告されているそうです。
いちょうユニットでもこのアザラシ型ロボット"パロ"を利用して、生活されている方が日中穏やかに、そして夜間ぐっすりと休んでいただけるよう取り組んでおります。

ちなみにこのグリーンホームの"パロ"ですが、とある利用者さんからぺぺちゃんという名前を付けてもらったそうです。今後もこのぺぺちゃんの活躍ぶりをこのグリーンホームだよりにてお伝えしていきたいと思います！
（いちょうユニット ユニットリーダー）

過去記事：メンタルコミットロボット パロがやってきました（2017.05.09）

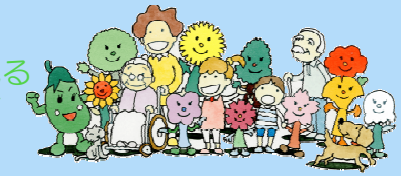
この記事に対して･･･

Thank you!!

☑ ええな～! 34 人が「ええな～!」と言っています。

ページ先頭へ

私たちは、地域に信頼されるべき存在であり続けます



鈴鹿グリーンホーム公式ホームページ
https://suzuka-greenhome.jp

５．アンケート結果

・ICTや介護機器を活用することで業務時間が減り、余裕やモチベーションの維持・向上につながった
⇒ショートステイケアワーカーの82.3%

・眠りSCANの導入により夜勤者の不安の軽減に繋がった
⇒ショートステイケアワーカーの76.4%

・ICTや介護機器は使いやすいと感じている
⇒ショートステイケアワーカーの82.3%

・今後もICTや介護機器を積極的に導入していきたい
⇒ショートステイケアワーカーの82.3%

６．活動の成果と評価

①ケアワーカーの精神的な安心の確保
⇒タブレット端末に情報が表示されるため、離れていても状態が分かり、状態に変化があった場合も端末に表示され、夜勤職員の安心に繋がった。（ショートステイスタッフの内82%）

②夜間定期的な様子確認の廃止、覚醒時の様子確認へ
⇒定期的な様子観察の廃止によりスタッフの動線が短くなり記録時間も短縮、その他ICT(電子記録システム等)も活用し業務時間が30～45分短くなり、業務による残業時間の削減により翌日のモチベーションの維持につながった。

③不眠や不穏のある利用者の睡眠の改善
⇒活用方法の理解や、簡単な成果が見えたことで新しい機器に対してケアワーカーの抵抗が興味へ変わり、睡眠リズムを把握し不眠利用者を安眠へ繋げる取り組みが動き出した。

7．活動成果を出すポイントになった点

・中期経営計画策定チームによる新たな「中期経営計画(2018.4～2021.3)」の策定と理事長によるビジョンの設定

・理事長、施設長と幹部職員の提案による新たなユニット、センサー型ロボットシステムの導入【経営会議の実行力と経営判断】

・スタッフの課題意識と発想力、対応力、課題解決力

・ホームページの活用方法【ツールの活用】

８．今後の課題

◎夜間不眠や不穏がある対象者を増やし、睡眠のリズムを把握し原因を取り除く。夜間の安眠を確保することでケアワーカーの達成感や支援時間の減少に繋げ、モチベーションの維持・向上につなげる。

◎眠りスキャンで測定された睡眠リズムや脈拍・呼吸状態などのデータを活用し、多職種や家族と情報を共有することでケアワーカーの発想力や課題意識の向上、興味の向上につなげる。

◎ホームページ以外でも活用の様子を地域に発信していくことでスマートでカッコいい介護のイメージアップにつなげる。

◎アンケート結果によりモチベーションの維持・向上に繋がったと100％の回答結果を実現する。

９．まとめ

◎どれだけ良い機器を導入しても活用するのはスタッフである。宝の持ち腐れにならないように興味を持たせることが必要。
ケアワーカーは常に新しい物に対して嫌っている。より効率的でありより良いケアに繋がることを理解することが必要。簡単な成果から達成感を感じ、次につなげることが重要。使いこなしていくことで業務時間に余裕ができ、ケアワーカーのモチベーション維持にも繋がると考えている。

◎ICTや介護機器は若いケアワーカー程覚えが早く、年配のケアワーカーは覚えが遅い。ケアワーカーによって差があるのは当然であり、徐々に使い続けていくことで活用方法に慣れていくことが重要。

◎2025年の超高齢社会に対して生産労働人口が減少し、人手不足となっていく今後の社会で、いかに少ない人数でもICTや介護機器を活用することで一人一人の生産性を向上し、余裕や安心をモチベーションの維持・向上につなげることが重要だと考えている。

～ご清聴ありがとうございました～